

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・人との関わりの中で、多様な考えや価値観に触れ、互いを認め合ったり、思いや考えを広げ、深め合ったりすることができる授業作りや、タブレット端末を活用して学習内容の定着や授業展開の工夫を目指す。	中間評価	・校内研究では、総合的な学習の時間や生活科を通して、人との関わりの中で対話の質を高めるために、思考ツールなどを用いた授業づくりを進めている。また、タブレット端末やプリント等を併用して学習内容が定着するように努めている。	最終評価	・思考ツールを活用した授業作りや話し合い活動を継続することで、自分の思いや考えを拡散させたり収束させたりすることができた。また、タブレット端末を活用することで、意見を交流する学習を進めることに役立てることができた。また、個別補習や家庭学習で基礎的・基本的な学力の習熟を高めることができた。
		・各教室の板書や掲示を統一することで、全校の学習の流れを定着させる。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、どの児童にも分かりやすく、集中して、学習に取り組むことができるような環境づくりを行う。		・全校で「めあて」「自己解決」「発表・表現」「振り返り」など、学習の流れを共有して進めてきたので、学び方が身に付いてきている。 ・児童が学習内容に集中できるよう、教室内の掲示物の位置を考慮するなど環境整備に努めている。		・「めあて」をもって学習に臨み、めあてをふりかえることで、自己課題を見つけそれを次時につなげていくという学習展開を意識して取り組むことで、個々に見通しをもって学習に取り組むことができるようになってきている。 ・児童の関心・意欲を高めたり、学習理解を深めたりするために ICT 機器を積極的に取り入れることができた。学習活動の流れを確認したり、他のグループとの情報交換の場となるような掲示物の工夫を行った。

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）
1	国語	<p>【学】「話すこと・聞くこと」について、話し方・聞き方の基本的なルールを毎時間確認している。</p> <p>【学】場面に応じた、丁寧な話し方について、9割の児童が理解している。</p> <p>【学】平仮名の読み書きについては、およそ8割の児童が習得している。片仮名の読み書きについては、理解が十分ではなく、適切に使えていない様子が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大事なことを聞き落とさないように指導する必要がある。 ・相手に分かるように話すことに課題が見られる。 ・「は」「を」「へ」などの助詞についての理解が十分ではなく、文章の中で適切に使えていない。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す人の方を見て、話を聞く習慣を身に付ける。 ・尋ねたり応答したりするなどして、話題に沿って話し合うことができるように、少人数で話し合う活動や発表の場を意図的に設定する。 ・文や文章を書く場面を意図的・計画的に設定する。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視写や作文指導など、文章を書く機会を多く設ける。 ・身近な題材を基に自分の体験したことや経験したことについて書く機会を多く設ける。 ・自分の書いた文章を読み返す習慣を身に付けられるようにする。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末のオクリンクを活用し、友達の書いた文章を読むことで、様々な「書き方」に触れることができるようにする。 ・定期的に片仮名や既習漢字の復習を行う。 ・タブレット端末のデジタルドリルを活用したスキル練習の時間や家庭学習を設定して、文字の理解と定着を図る。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す人の方を見て、話を聞く習慣を身に付けることができた。 ・尋ねたり応答したりするなどして、話題に沿って話し合うことができるようになった。 ・文や文章を書く場を意図的に設定したことで、苦手意識が軽減した。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視写や作文指導など、文章を書く機会を多く設けたことで、カタカナや既習漢字を用いて、文章を書くことができる児童も7割程度になった。個別での指導も継続して行っていく。 ・身近な題材を基に、自分の体験したことや経験したことについて書く機会を多く設けたことで、文章を書くことに対して、意欲的に取り組む姿が見られるようになってきた。まだ、書くことに対して、苦手意識をもっている児童もおり、継続して取り組む必要がある。 ・自分の書いた文章を読み返すことが定着できた。テストなども見直すことができるようになった。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の協働学習支援ソフトを活用したことで、友達や自分の書いた文章に興味・関心をもち、意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・定期的に片仮名や既習漢字の復習としてテストやタブレット端末のデジタルドリルを活用した。授業や家庭学習で、常時取り組むことができた。文字の理解や定着が9割程度の児童ができるようになってきた。
	算数	<p>【学】10以内の加法・減法については、概ね、理解できている。</p> <p>【学】繰り上がりのある加法の計算については、理解しているが、計算に時間がかかる児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10の合成・分解の理解が不十分な児童が見られる。 ・繰り上がりのある加法についての技能の習得が不十分な児童が数名いる。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の学習を充実させる。 ・授業の中で算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れる。 ・ICT機器を活用し、絵や図などを使って視覚的に理解できる提示を、計画的に取り入れる。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反復学習を取り入れ、計算の仕方の理解と習熟を図る。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末のデジタルドリルを活用したスキル練習の時間や家庭学習を設定して、計算の仕方の理解と習熟を図る。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れたことで、10の合成・分解の理解が9割程度できるようになってきた。繰り上がり、繰り下がり計算についても理解が進んだ。個人差があるため、個別指導も取り入れた。 ・ICT機器を活用し視覚的に提示することで、理解が進んだ。言語による説明だけでは、理解が難しく、集中して取り組むことができない児童が多い。引き続きICT機器の活用を継続していく。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反復学習を授業や朝の時間、家庭学習などに、定期的に取り入れたため、計算力が高まった。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末のデジタルドリルを授業や家庭学習で定期的に取り入れたことで、苦手意識を軽減することができた。計算の仕方の理解と習熟を図った。
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月） → 最終評価（2月）

2	国語	<p>【学】「話すこと・聞くこと」について、話し方・聞き方の基本的なルールを確認している。</p> <p>【学】平仮名及び片仮名の読み書きについては、ほぼ全ての児童が習得しているが、文や文章の中で適切に使えない様子が見られる。また、これまでに習った漢字の習得は不十分で、習った漢字を使って文章を書く習慣が身に付いていない児童が多い。</p> <p>【学】新出漢字については、興味をもって習得しようとする意欲がある。</p>	<p>・大事なことを聞き落とさないようにしながら、最後まで集中して話を聞くことができるように指導する必要がある。</p> <p>・語と語や文と文との続き方に注意して、つながりのある文章を書く経験が少なく、また、語彙力も乏しい。できごとを具体的に書いたり、気持ちを書き表したりすることができるようにする。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <p>・年間を通して「話すこと・聞くこと」についての基本的な知識・技能を指導する。また、掲示物を用意し、常に児童が意識できるように、事柄の順序を意識して詳しく話したり聞いたりすることができるようにする。</p> <p>【1単位時間レベル】</p> <p>・国語科以外の学習や日常生活においても、つながりのある文や文章の書き方を指導する。漢字学習を中心にタブレット端末のデジタルドリルを積極的に活用することで、漢字の理解と定着を図る。</p> <p>【その他の日常的な取組】</p> <p>・児童との日常的なやりとりの中で、「言葉」を大切にし、正しい言葉遣いを身に付けさせると共に、語彙を広げられるようにする。日常的に既習漢字を使うことを意識させていく。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」についての基本的なルールは身に付いてきている。相手の話の内容に対して質問したり、意見を言ったりする活動を意図的に取り入れている。</p> <p>【1単位時間レベル】</p> <p>・国語科以外の学習や日常生活においては、生活科の「見つけたよカード」や学習の振り返りなどを通して、つながりのある文や文章の書き方の指導を継続している。漢字学習を中心にタブレット端末のデジタルドリルを積極的に活用することで、漢字の理解と定着を図っている。</p> <p>【その他の日常的な取組】</p> <p>・新出漢字を学習する際には、語彙を広げられるようにその漢字を使った言葉を発表させている。また、平仮名や片仮名の読み書き、既習漢字を中心に復習するようにしている。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」についての基本的なルールは身に付けることができた。相手の話の内容に対して質問したり、意見をつけ足したりすることもできるようになった。</p> <p>【1単位時間レベル】</p> <p>・ミニ作文や、生活科の振り返りカードの記入を通して、文章を書く力は全体的には向上した。個人差があるため、個別に対応した。漢字学習を中心にタブレット端末のデジタルドリルを積極的に活用することで、漢字の理解と定着を図った。</p> <p>【その他の日常的な取組】</p> <p>・既習漢字を普段から活用することを意識させ、定着を図り、9割以上の児童が身に付けることができた。</p>
	算数	<p>【学】答えが10以内の加法・減法については、ほぼ全ての児童が理解できているが、定着が不十分な児童が数名見られる。</p> <p>【学】問題を把握する力が不十分で、立式することが困難な児童もいる。</p>	<p>・繰り上がりや繰り下がりのある加法・減法の計算についての理解ができるようにする。</p> <p>・文章問題を読んで理解し、立式することに課題がある。また、なぜその立式ができるのかを説明する経験が少なく、表現方法について指導する。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <p>・授業の中で算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れる。</p> <p>【1単位時間レベル】</p> <p>・文章問題において、「分かっていること」と「求めていること」を確実におさえ、何を問われているのかを理解できるように支援する。</p> <p>・自分の考えを図、式、言葉で表す時間や、それを共有する時間を設けることで、考え方を表現する方法を身に付けさせる。</p> <p>【その他の日常的な取組】</p> <p>・日々の宿題でタブレット端末のデジタルドリルや東京ベシック・ドリルを活用し、基本的な計算練習を繰り返し行い、計算力を高める。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <p>・授業の中で半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れることで、図に表すことができるようになり、立式に生かせるようになってきた。</p> <p>【1単位時間レベル】</p> <p>・文章問題において、「分かっていること」と「求めていること」に印をつけながら問題に取り組むようにした。また、かけ算においては、図を使って考え方を整理することで、立式する力を高めるてだてとなるようにした。</p> <p>【その他の日常的な取組】</p> <p>・タブレット端末のデジタルドリル、かけ算九九学習カードを活用することで、基礎的な計算力を高める練習をしている。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <p>・図を使って考えを表すことができるようになり、立式に生かすことができるようになった。立式が苦手な児童に対しては、図を提示することで、立式することができるようになった。</p> <p>【1単位時間レベル】</p> <p>・「分かっていること」や「求めていること」に気を付けて問題に取り組むことで、立式に生かすことができた。かけ算では意味を理解することにも重点をおいて取り組み、技能の定着を図ることができた。</p> <p>【その他の日常的な取組】</p> <p>・タブレット端末のデジタルドリル、かけ算九九学習カードを活用することで、繰り返し復習を行い、9割以上の児童が、かけ算九九をマスターすることができた。</p>
3	国語	<p>【調】教科全体の正答率が80.6%で、目標値を3.7ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が92.8%で、目標値を8.3ポイント上回った。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が57.0%で、目標値を10.0ポイント下回った。</p> <p>「書くこと」は、定められた4行から7行の間で文章を書くことができるかを見る問題において目標値を20.7ポイント下回った。「話すこと・聞くこと」は、目標値を16.3ポイント下回った。</p> <p>【学】授業では、集中して取り組んだり、活発に意見を言ったりする児童が多く見られるが、学習に対して自信がもてないせいか、意欲が低い児童も見られる。</p>	<p>・主体的に学習に取り組む態度を育成するために、問題解決力や、自己調整力を高める必要がある。そのため、問題解決の見通しをもたせることや、めあてに即した自己評価を取り入れるようにする。</p> <p>・「書くこと」、「話すこと・聞くこと」の経験を重ね、多様な場面で活用できるようにする必要がある。そのため、総合的な学習の時間を中核としたカリキュラムマネジメントを行い、活用の場を増やすようにする。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <p>・道徳、総合的な学習の時間、学級活動などの時間を通して、実際の話し合いや活動の中で「書くこと」、「話すこと・聞くこと」を活用する場を意図的に設定する。</p> <p>・問いを中心とした問題解決学習にすることで、国語の面白さを感じられるようにする。</p> <p>【1単位時間レベル】</p> <p>・問題解決的な学習過程を計画し、児童が目的を考え、見通しをもって取り組むことができる授業づくりに努める。</p> <p>・ペアや3人～4人の小グループで協働する機会を作り、実践的な話す・聞く力を身に付ける授業を行う。</p> <p>【その他の日常的な取り組み】</p> <p>・10問程度の漢字小テストなど、学校で取り組む課題と家庭学習を連動して取り組めるようにし、知識・技能の定着を図る。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <p>・教科横断的な活動を意識して指導したことで、「話すこと・聞くこと」に関する力の向上は見られるようになった。「書くこと」については、問いに正対した答えや、長文での表現に課題が見られる。今後、書くことに重点を置いて単元計画を組み立てて学習を進めていく。</p> <p>【1単位時間レベル】</p> <p>・毎時間の学習の見通しを明確にしたことで、個人や少人数グループで学習が進められるようになってきた。</p> <p>・小グループで話し合う機会を多くしたことで、自分の意見を、理由を明確にして伝えることや、友達のことをよく聞いて受け止めたり、質問したりする力が身に付いてきている。今後、さらに集団の中でもそのような力が発揮できるよう継続していく。</p> <p>・タブレット端末のデジタルドリルと小テストの併用での、漢字の読み書きは定着してきたが、家庭学習の取り組み方によって定着度の格差がある。引き続き指導していく。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <p>・問題解決的な学習を教科横断的にを行い、グループ、クラス全体などの対話的な学習場面を経験することによって問いに正対したり、理由をもったりして話することができるようになってきた。</p> <p>【1単位時間レベル】</p> <p>・学習の見通しをもたせるために取り入れた子どもグループブックにより、学び方の目標を具体的にイメージし、それに近付こうと意識しながら学習することができるようになってきた。</p> <p>【その他の日常的な取り組み】</p> <p>・漢字の読み書きについては、デジタルドリルと小テストの繰り返し、間違い直しを徹底することで改善してきた。今後も継続していく必要がある。</p>

	算数	<p>【調】教科全体の正答率が71.4%で、目標値を0.5ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が60.0%で、目標値を3.7ポイント上回った。一方、「知識・技能」が74.8%で、目標値を0.4ポイント下回った。数直線上に示された数を読み取る問題では、目標値を20ポイント下回った。LとdLの関係についての問題では、目標値を12.6ポイント下回った。</p> <p>【学】授業では、集中して取り組んだり、活発に意見を言ったりする児童が多く見られるが、既習事項の定着に課題があり、新しい学習内容の理解や積み重ねが難しい児童も見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図の読み取りや単位の理解など、基礎的な知識・技能を再確認する必要がある。そのため、単元の初めに既習事項に立ち返る学習を取り入れたり、実物やICTを活用して量的が感覚を養うような学習を取り入れたりする。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レディネステスト、普段の学習の様子や単元テスト、東京ベシック・ドリルテストなどを参考にして習熟度別のクラスを決定し、個に応じた丁寧な指導を徹底する。 ・習熟度に応じて、既習事項の復習を単元計画に取り入れ、基礎・基本的な学習内容が積み重なるように工夫する。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習過程を計画し、児童が目的を考え、見通しをもって取り組むことができる授業づくりに努める。 ・「図形」や「測定」の領域においては具体物や、ICT機器を活用し、視覚的に分かりやすいように工夫することで、量的感覚を身に付けられるようにする。 ・式や自分の考えを説明したり、他の児童の考えを説明したりする活動を通して、思考力・判断力、表現力の育成を目指す。 <p>【その他の日常的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末のデジタルドリルや、放課後学習「ぐんぐん教室」を活用して既習事項の確認や、学び直しの機会を設ける。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別クラスの担当を固定化したことで、児童の特性を理解して、指導することができた。 ・かけ算の筆算やわり算などの習熟状況を見て、指導時間を1時間増やす等、単元計画の見直しを行い、学習内容の定着を図った。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習過程を計画し、見通しをもって取り組めるようにしたが、クラスによっては、既習事項の確認に時間がかかる場面があった。放課後補習教室などと連携して進めていくようにする。 ・ICT機器を活用して、視覚的に分かりやすいように工夫したことで、児童が学習内容を身に付けることができた。 ・自分や他の児童の解き方を言語で説明する場面を取り入れたことで、単に式の解法にとどまらず、意味の理解につながった。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別クラス担当の固定化や、実態に応じた柔軟な計画を実施することで、個に応じた指導が可能となり、それぞれの課題に向き合うことができた。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、視覚的に課題把握しやすいようにした上で、問題解決型の授業展開をすることで、目的意識を明確にもって児童が学習に取り組むことができるようになった。 <p>【その他の日常的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後補習教室と連携し、新単元に入るタイミングで既習事項の学び直しを行ってもらうことでスムーズに学習を進めることができた。
4	国語	<p>【調】教科全体の正答率が82.1%で、目標値を10.1ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が85.6%で、目標値を12.3ポイント上回った。「思考・判断・表現」は78.0%で目標値を9ポイント上回った。主体的に学習に取り組む態度も75.2%で3年生の時より上回った。</p> <p>【調】領域別に見ると、全ての領域で目標値を上回っているが、その中で「書くこと」が目標値56.7に対して正答率68.5%と低めになっている。特に、「メモもとに文章を書く」問題が目標値47.5に対して正答率が54.8と、上回ってはいるが正答率が低い。</p> <p>【学】授業中のノートや提出されたワークシートや作文などを見ると、既習の漢字の定着や、特殊音節の書き取りに課題が見られる。また、まとまった量の文章を書くことにも課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の作文の問題では、指定された条件の理解ができず、自分の思ったことを書く学力調査の作文の問題では、指定された条件の理解ができず、自分の思ったことを書き連ねていた。また、段落の意味の理解や、作文用紙の書き方の定着が不十分である。そのため、作文用紙の使い方の指導を書く度に行うことで定着を図り、作文用紙を使うことに慣らされる必要がある。また、問題文を丁寧に読み取ることを、普段のワークテストや課題に取り組む際に助言していく。 ・ノートに自分の意見を書くことについては、どの児童も積極的に取り組むことができる。しかし、まとまった量の文章を書くことができる児童はほんの少数である。多くの児童は、定型文のように、「～だ」と思います。なぜなら、～だからです。」と書くことが多く、短文で終わってしまうことが課題である。そのため、詳しく説明すること、文章を膨らませて書くことを指導する必要がある。 ・「楽しかった」、「嬉しかった」と同じような言葉で表現することが多く、語彙が多くないところも課題である。授業を通して、様々な言葉に触れ、語彙を増やす指導をしていく。 ・文章の基本的な書き方を定期的に指導していく必要がある。主語と述語が合わなかったり、文末が正しくなかったり、特殊音節など、言葉を正しく表記することについても課題が見られる。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読む」「話す・聞く」の学習においても、「書く」活動を取り入れた単元計画を工夫する。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアや3人～4人の小グループで意見を伝え合い、文章を推敲し合う機会をつくる。スモールステップの目標を設定することで、話す・聞く力や書く力を身に付ける授業を行う。 ・漢字学習を中心に、タブレット端末のデジタルドリルや書き取りプリントに取り組み、漢字の定着を図る。 <p>【その他の日常的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5問程度の漢字小テストを繰り返し行い、漢字の定着を図る。 ・辞書引き学習を取り入れ、すすんで辞書を引く児童を育てることで、語彙力の向上を目指す。(国語辞典・漢字辞典) ・日常的にミニ作文を書くことで、文章で表現することに慣れさせ、書くことへの苦手意識を取り払う。 ・MIM指導を取り入れ、特殊音節を書き取る力を確実に付ける 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読むことの単元の中に50字程度で記述する問いを取り入れられたり、話す・聞くことの単元では、新聞を作って発表させたりするなどの活動を取り入れた結果、書くことに対する抵抗感が減ってきた。今後も書くことの活動を取り入れた単元計画を工夫していきたい。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで発問に対する意見を出し合い、整理して書き、それを基に発表する機会を作ったことで、理由を明確にして自分の意見を伝える習慣が身に付いてきた。しかし、語彙の不足から文章が続かない場面も見られたので、デジタルドリルの語彙の単元を学習し、語彙を増やすように努めたい。 ・漢字の定着のため漢字小テストを実施しているが、日々使わないと定着が難しいので、テストを継続しながら、「書くこと」の単元で漢字を適切に使うよう指導していきたい。 <p>【その他の日常的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の振り返りや感想を書く活動を継続していくことで徐々に長い文章が書けるようになってきている。引き続き、書く活動を指導していく。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」に関しては、年間を通して、文中の叙述を根拠にして読み取ることを徹底してきたことで、場面のつながりについて深く読み取ることができるようになった。また、情景描写を捉えて、考えを深めることができる児童も増えてきた。 ・「書くこと」に関しては、年間を通して、自分の考えを表現する機会を単元の中に意図的・計画的に設定したことで、書くことへの抵抗感が減り、素早く書き始められる児童が増えた。また、既習の学習内容を生かしながら書く児童も増えた。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習を中心にタブレット端末のデジタルドリルを積極的に活用し、漢字の理解と定着を図ることができた。タブレット端末の活用とノートでの学習を並行して行うことで、定着を図ることができた。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、漢字の書き取りを週に1回実施したことで、漢字を正しく丁寧に書く力が高まった。

	算数	<p>【調】教科全体の正答率が 75.9%で、目標値を 9 ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が 82.7%で、目標値を 9.2 ポイント上回った。「思考・判断・表現」が 53.8%で、目標値を 8.2 ポイント上回った。「主体的に学習に取り組む態度」は 66.8%で国語よりも低い結果になっている。</p> <p>領域や問題別に見ると、全ての領域・問題で目標値を上回っているが、その中で「わり算」が目標値 59.4 に対して正答率が 68.4%と低めになっている。かけ算の正答率は 73.8 であり、これも目標値を上回っているが全体的に見ると計算問題の正答率が低い傾向にある。</p> <p>【学】授業中の様子やワークテスト、提出された課題を見ると、基本的な計算の技能がまだ十分に身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果や、普段の授業の様子から、計算能力がまだ十分に身に付いていないことがわかる。かけ算の筆算の問題では、九九を間違えたり、繰り上がりの足し算を間違えたりすることで正しい答えを導き出せない。暗算が苦手な児童もいる。 ・計算のスピードにも課題が見られる。そのため、基本的な計算練習を授業の始めの時間や、宿題等で時間を計りながら、常時取り組んでいく必要がある。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、レディネステストやワークテスト、授業の様子から児童の実態を正確に把握し、習熟度別による適正なクラス分けを行い、効果的な個別指導が行き届くようにする。 ・習熟度別指導、特に D 層の児童については、基礎的・基本的な学習内容の指導を徹底する。 ・家庭学習や授業の導入で既習事項の復習プリントに取り組む。 <p>【1 単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・習熟度に合わせて、教材を用意する。 ・図、式、言葉で自分の考えをノートに書き、それを分かりやすく説明できる力を身に付けられるように指導する。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日タブレット端末のドリルパークを利用した宿題を出すことで、数や図形に触れる機会を増やし、学習内容の定着を図る。 ・百マス計算などで、基本的な計算を確実に速く計算できるように練習する。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別による適正なクラス分けにより、それぞれの児童の実態に合わせた資料を作ることができ、効果的に指導が行えている。引き続き、この体制を維持していく。 ・デジタルドリルを継続して活用し、単元の理解度を確認する。理解が不足していると感じる場合は、適時、家庭学習用のプリントを作成し、単元の理解度を高めていくようにしたい。 <p>【1 単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間のめあてを明確にしていることで、1 時間の見通しができ、安心して授業に臨むことができています。 ・式を書く習慣はついたものの、図に表したり、言葉で説明したりすることに苦手意識があるので、問題の解法を多角的にとらえる経験をさせていきたい。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子に気を配り、理解できなかった内容があった児童に声をかけ、補習をするなど丁寧な対応をしていきたい。 ・ICT 機器の特性を生かし、視覚的にわかりやすい資料の提示を行うように心がける。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習につまずきが見られる児童を担任と算数少人数担当とで共有することで、授業の構成や時数の変更、習熟プリントへの取り組みなどを通して学習内容の定着を図ることができた。 ・学習をスムーズに進めるため、ICT 機器を継続的に活用することができた。 <p>【1 単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形領域では、実物や、実寸大の模型を用意したり、視覚的に分かりやすくしたりすることで習熟を図ることができた。 ・習熟プリントを複数用意することで、45 分の授業時間に集中して取り組むことができた。 ・「めあて」、「問題」、「自分の考え」、「まとめ」と必ずノートに書くことが決まっていたので、分かりやすいノートを書く習慣が身に付いた。 <p>【その他の日常的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や宿題でタブレット端末のデジタルドリルに取り組んだり、習熟プリントに取り組んだりして学習内容の定着を図ることができた。
5	国語	<p>【調】教科全体の正答率は 66.7%と、全国を 2.6 ポイント、新宿区を 5.5 ポイント下回っている。</p> <p>【調】観点別正答率は、新宿区と比較すると、「知識・技能」では 6.8 ポイント、「思考・判断・表現」では 4.7 ポイント、「主体的に取り組む態度」では 9.6 ポイント下回っている。また、領域別正答率では、「読むこと」以外の領域では区の平均を下回っている。</p> <p>【学】授業における取組状況を見ると、意欲的に取り組む児童が多い。音読の宿題にもしっかり取り組むことができおり、それを生かして表現豊かに読むことができる児童もいる。しかし、読み取ったことを言葉や文章で表現することにおいては課題がある児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に「書くこと」「言語文化に関する事項」の領域で、全国平均や新宿区平均を大きく下回っているため、これらを意識した指導の改善や工夫が必要である。 ・A 層の児童を増やしていくとともに、文章を書く機会を増やし、考えをまとめて書く指導を丁寧に繰り返したり、個に応じた指導を行ったりすることで C 層 D 層の児童も「自分の考えを整理して書く」力を伸ばし、B 層に近付けていく指導の工夫が必要である。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」に関しては、読み取ったことを文書で表現することを意識的に行い、表現力を身に付けさせていく。また、よい表現を紹介していくことで表現の幅も広げていきたい。 <p>【1 単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・漢字学習を中心にタブレット端末のデジタルドリルを積極的に活用することで、漢字の理解と定着を図る。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の読み書き」「言葉の特徴やきまり」について習熟を図るため、週に 1 回程度の小テストを実施する。 ・学校図書館支援員などと協力し、読書活動を推進する。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」に関しては、文章や詩など、自分の考えを表現する活動を意図的に計画し取り組んでいる。タブレット端末を活用して児童同士の考えを共有する活動を行うことで、友達のを参考に C 層や D 層の児童に見通しをもたせ、個々に思考し、表現できるようにしている。 ・物語文や説明文の学習では、見通しをもって、学べるようになった。また、文章に書いてある根拠や理由を明確にして、自分の考えをもつことができるようになった。 <p>【1 単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体での漢字練習を行い、タブレット端末を活用して漢字の定着を図るという取り組みで、習得ができるようになった児童が増えたが、書くことで習得する児童も多くいるため、家庭学習においてプリントなどを活用し、漢字の定着を図っている。 ・定期的に図書の時間を設定し、多くの書物に触れ、読書活動から文字に親しむことに取り組んでいる。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」に関しては、意見文や紹介文、季節の詩など、考えを表現する活動に意図的に取り組んできたので、事実と感想、意見を区別して書くことや、表現の効果を考えて書くことができるようになってきた。タブレット端末で児童の作品を共有する活動を行うことで、C 層や D 層の児童も友達のを参考に、個々に思考し、表現できるようになってきている。 <p>【1 単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明確にした授業を継続して行うことで、学習活動に見通しをもつことができるようになった。 1 単位時間ごとに振り返りを行うことで、日々の学びを積み重ねることができている。 ・紙媒体とタブレット端末による漢字練習を行い、多くの児童が学年配当漢字の習得ができるようになった。さらに、定期的に漢字の小テストを行うことで、更なる漢字の習得に励んでいる。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書の時間の設定や本の紹介を定期的に行うことで、多くの書物に触れ、読書活動から文字に親しむことができた。

	算数	<p>【調】教科全体の正答率は、68.3%と全国を1.0ポイント上回っており、新宿区を4.3ポイント下回っている。</p> <p>【調】観点別正答率は、新宿区と比較すると、「知識・技能」で2.8ポイント、「思考・判断・表現」で7.4ポイント、「主体的に取り組む態度」では、1.4ポイント下回っている。また、領域別正答率では、「数と計算」では、4.4ポイント、「図形」では、6.9ポイント、「変化と関係」では、7.7ポイント、「データの活用」では、7.5ポイント下回っている。</p> <p>【学】授業における取組状況を見ると、積極的に自分の考えを発表したり、発言したりするなど、意欲的に取り組む児童が多い。一方で、集中力の持続や既習の学習内容の定着に課題があるため、新しい学習内容の理解や積み重ねが難しい児童もいる。計算力や文章問題を自力解決する力においては、個人差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 算数に対する苦手意識をもっている児童がいる。児童が意欲や自信をもって取り組めるように教材の工夫や授業展開の工夫が必要である。 B層をA層に近付けることとD層の底上げが必要である。児童それぞれの学習内容の定着度を正確に把握し、個に応じた指導をしていく必要がある。 集中力の持続と根気よく取り組む姿勢、最後まで正確に問題を読み取る指導が必要である。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて、レディネステストなどで単元ごとの児童の実態を正確に把握し、習熟度別による適正なクラス分けを行い、効果的な個別指導が行き届くようにする。 習熟度別指導、特にD層の児童については、基礎的基本的な学習内容の指導を徹底する。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 習熟度に合わせて、教材を用意する。 朝学習や宿題としてタブレット端末のデジタルドリルを積極的に活用することで、計算力を高め、数や図形に関する知識と理解を確実にしていく。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日タブレット端末のデジタルドリルを利用した宿題を出すことで、数や図形に触れる機会を増やし、学習内容の定着を図る。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に、学習に取り組めるよう、得意な子、苦手な子も、協働的に互いを助け合いながら、問題を解くことができる時間を意図的に設定してきたことで、教え合いや学び合いができるようになった。 タブレット端末を用いて、D層を中心に下学年の既習事項を繰り返し学習してきたので、知識・技能が身に付いてきた。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を活用し、授業を展開することで、児童への指示を明確にし、C層D層の児童も学習内容を確認しながら進められるようにしているため、学習への集中力が高まっている。 図形の学習では、作図などの操作的活動を取り入れ、タブレット端末を有効活用し、内容理解を深めることができています。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童がタブレット端末で問題を解くときに、理解しないまま先の課題に進んでいた実態も見られたので、教師がワークテストの点数から理解が不十分な児童に個別で指導・支援を行っていく。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働的な問題解決の時間を設定することで、互いに学び合いながら、課題に取り組むことができるようになった。 タブレット端末を用いて、東京ベーシック・ドリルの内容を中心に下学年の既習事項を繰り返し学習してきたため、C層、D層の児童に基本の知識・技能が身に付いてきた。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を活用し、児童の意識、視点を集中させ授業を行うことにより、ねらいが明確に伝わり、一人一人の児童が学習内容をよく理解して授業に参加することができている。 図形の学習では、タブレット端末を有効活用し、作図などの操作的活動の見本を繰り返し視覚で伝達しながら、実際の作図における個別指導を並行して行うことができ、学習内容の理解を深めることができています。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルによる家庭学習に継続的に取り組んできた。出題する内容を単元の学習内容と既習のワークテストの点数から、理解が不十分である内容を選択することで、少しずつではあるが、学年の学習内容が総合的に定着してきている。
6	国語	<p>【調】教科全体の正答率が72.2%で、目標値を3.7ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が69.2%で、目標値を1.3ポイント上回った。「思考・判断・表現」は73.8%で目標値を6.1ポイント上回った。「主体的に学習に取り組む態度」も70%で4年生の時より上回った。</p> <p>【調】領域別に見ると、全ての領域で目標値を上回っているが、「我が国の言語文化に関する事項」が目標値40%に対して正答率31.5%と低めになっている。特に、「言葉の学習」問題が目標値61%に対して正答率が56.3%と下回っている。また、「文章を書く」問題が目標値71.3%に対して正答率が69.9%と、下回っている。</p> <p>【学】授業中のノートや提出されたワークシートや作文などの様子を見ると、既習の漢字の定着や、適切に文章を書くことの課題が見られる。また、まとまった量の文章を書くことにも課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、問題解決力や、粘り強く取り組む力を高める必要がある。 「書くこと」、「話すこと・聞くこと」の経験を重ね、多様な場面で活用できるようにする必要がある。 漢字の習得をしっかりとできるよう指導し、様々な場面で活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問いを中心とした問題解決学習にすることで、国語の面白さを感じられるようにする。また、物語や説明文などの学習後、他教科の学習に関連する本を読み、汎用的に学習内容にかかわる本を紹介し、読書の幅を広げていけるよう指導する。 国語の時間を通して、実際の話し合いや活動の中で「書くこと」、「話すこと・聞くこと」をしっかりと習得できるようにし、汎用的に他教科などで活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時には、児童が興味をもてるような資料を提示することによって意欲を高めている。また、単元の最終活動を第1時に伝えることによって、見通しをもちながら計画的に学習に取り組んでいる。 単元ごとに児童に身に付けさせたい力やねらいを明確にし、児童の振り返りも活用しながら、授業計画を立てている。 毎時間の学習で、自分が考えたことを隣の友達やグループの人に伝え合う時間を設定することができた。 学習課題に対して、自分の考えを明確にし、文章をしっかりと書くことができるようになった。 他教科の時間も、音声言語の対話から文字言語で表記できるよう課題に応じて、的確に自分の考えを書けるようにしていく。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいから、児童が主体的に学習に取り組めるよう、資料の提示を工夫してきた。また、学習の見通しをもたせ、児童が学習を計画的に展開できるように、工夫してきた。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、自分の考えを明確にもち、児童が協働的に話し合い、意見の共有をしながら、新たな考えを構築することができた。また、終末の振り返りでは、学んだことを自分の言葉で振り返り、文章で記述することができた。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態から、自分の考えをしっかりと書くために、音声言語で対話し、意見の共有を行い、的確に文章で書くことができるようになった。

	算数	<p>【調】教科全体の正答率が69.3%で、目標値を6.1ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が76.1%で、目標値を5.9ポイント上回った。「思考・判断・表現」が56.8%で、目標値を6.4ポイント上回った。「主体的に学習に取り組む態度」は55.3%で国語よりも低い結果になっている。</p> <p>領域や問題別に見ると、全ての領域・問題で目標値を上回っているが、「分数と小数」が目標値62.5%に対して正答率が62.%と低めになっている。「小数のかけ算・わり算」の正答率は61.2%であり、これも目標値を上回っているが全体的に見ると計算問題が低い傾向にある。</p> <p>【学】授業中の様子や、ワークテスト、提出された課題を見ると、基本的な計算の技能がまだ十分に身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数のかけ算・わり算、分数と小数の計算、単位量あたりの計算の理解など、基礎的な知識・技能を再確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルパークやプリントなどを使用し、家庭学習を活用して既習事項の確認や、学び直しができるように指導する。 ・「分数と小数」、「小数のかけ算・わり算」では、家庭学習で、ドリルパークや計算プリントなど既習事項を繰り返し行い、継続的に再テストなどを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元前のレディネステストや、日常の学習の様子、単元のワークテストの結果からクラスを編成し、習熟の程度に応じた指導を行っている。 ・東京ベーシック・ドリルの練習問題に取り組み、結果を基にタブレット端末の宿題において、苦手な単元を選択し、繰り返し学習を行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。東京ベーシック・ドリルの結果も向上している。 ・導入時に前回学んだことの振り返りをしたり、児童が学習課題を考えたりして、児童が意欲をもって学習に取り組むことができるように工夫をした。 ・習熟によって基礎的・基本的な問題に取り組みせたり、発展的な問題を用意して取り組ませたりして、個に応じた指導を行うことができた。 ・毎時間ICT機器を活用し、問題を視覚化することで、課題に対する内容理解を深めることができた。 	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のねらいから、児童が主体的に学習に取り組めるよう、教材の扱い方を工夫してきた。また、学習の見通しをもたせ、児童が単元内容を理解できるようにした。 <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、自分の考えを明確にもち、児童が協働的に話し合い、意見の共有をしながら、答えを導くためのプロセスの多様さや最適解を理解することができた。また、終末のまとめでは、課題に対して、学んだことを自分の言葉で振り返り、文章で記述することができた。 <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態から、家庭学習などで、東京ベーシック・ドリルなどを活用し、既習事項の徹底を図り、算数の内容理解を深めることができた。
音楽	<p>【学】</p> <p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく活動することができる児童が多い。 ・拍に合わせて手拍子をしたり、楽しく歌ったりすることができる児童が多い。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すすんで活動することができる児童と活動に集中することが難しい児童がいる。 ・曲に合う歌い方で歌うことができる児童が多い。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動することができる児童と活動に集中することが難しい児童がいる。 ・基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている児童と身に付いていない児童がいる。 	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を楽しむと同時に、学習規律も身に付けるよう指導する必要がある。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に集中することが難しい児童がいるので、学習規律を身に付けるよう指導する必要がある。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に取り組む姿勢や態度が身に付いていない児童がいるので、休み時間と授業のメリハリを付けることができるよう指導する必要がある。 ・主体的に自分の意見を発表したり、友達の意見を理解したりすることができるよう指導する必要がある。 ・リコーダーの基本的な指づかいや楽譜の読み方が身に付くよう指導する必要がある。 	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで音楽を楽しく学ぶことができるように、楽器を勝手に触らない、打楽器の音がしたら話を聞く姿勢になるといった学級のきまりを守るようにする。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に集中することができるよう、活動時間を短く区切ったり、めあてや活動内容を明確に伝えたりしていく。 ・曲を聴いたり、歌ったり、演奏したりする際に、楽譜を見たり、書いたりさせることで、楽譜に関わる知識を身に付けさせていく。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と協力し、持ち物を揃えさせたり、丁寧な言葉遣いを身に付けさせたりすることができるよう、根気よく指導していく。 ・タブレット端末を活用し、個人の意見を全体で共有させたり、グループで話し合った内容をまとめさせたりすることで、活動に参加している実感をもたせ、主体的な活動を促す。 ・個別指導やグループ活動を充実させることで、児童一人一人に適した課題を与えたり、友達と教え合う場を設定したりする。 	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽会に向けて、歌声を合わせて歌ったり、リズムを合わせて演奏したりする活動を通して、みんなで一つの音楽をつくる楽しさを味わうことができるようにしている。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽会に向けて、歌詞の様子を想像しながら歌ったり、音色に気を付けながらリコーダーを演奏したり、いろいろな楽器を合わせて合奏したりする活動を通して、みんなで一つの音楽をつくる楽しさを味わうことができるようにしている。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽会に向けて、2部合唱や3部合唱に挑戦したり、いろいろな楽器の役割を考えながら合奏したりする活動を通して、みんなで一つの音楽をつくる楽しさを味わうことができるようにする。 ・タブレット端末を活用し、児童の端末に範奏を送ったり、児童の意見を集めてまとめたりすることで、分かりやすい指導を心がけている。 ・パートリーダーを決めさせることで、児童主体の活動を充実させ、児童が主体的に課題を見付けて解決していくことができるようにしている。 	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽会を通して、みんなで一つの音楽をつくる楽しさや演奏を聴いてもらう喜びを味わうことができた。また、歌や楽器の演奏を通して、音楽会で学んだことを生かし、次の学習につなげることができた。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽会を通して、みんなで一つの音楽をつくる楽しさや演奏を聴いてもらう喜びを味わうことができた。 ・活動に集中することが難しい児童に対して、引き続き、学習環境を整えたり、担任と協力したりして、学習規律を身に付けさせていく必要がある。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽会を通して、上級生としての自覚が芽生え、下級生がめこまれる演奏を披露することができた。 ・タブレット端末を活用することで、児童が課題に取り組む際、時間や場所を選ぶことができるようになり、柔軟に学習することができるようになった。 ・目標と課題を明確にすることで、児童が主体的に活動することができるようになった。 ・学習に取り組む姿勢や態度が身に付いていない児童に対して、引き続き、授業内容を工夫したり、担任と協力したりして、学習に対する意欲を高めていく必要がある。 	

<p style="text-align: center;">図工</p>	<p>学</p> <p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく活動することができる児童が多い。 自分の思いを素直に表そうとする児童が多い。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> すすんで活動をする児童が多いが、粘り強く最後まで課題意識をもつ児童は少ない。 自分の思いを素直に表そうとする児童が多い。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 上手に表現しようとすすんで活動をする児童が多いが、自信の無さから粘り強く最後まで課題意識をもてない児童もいる。 自分の思いをうまく表現できない児童は苦手意識をもっている。 	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習規律も身に付けるように指導する必要がある。 思いを正しく表現できるように指導する必要がある。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方や表現方法の工夫を伝え、より多くの知識・技能を習得させる必要がある。 思いを正しく表現できるように指導する必要がある。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を定着させる必要がある。 より多くの知識・技能を習得させる必要があるとともに、発想を豊かにさせる必要がある。 思いを正しく表現できるように指導する必要がある。 	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 話の聞き方、準備や片付けの仕方を丁寧に指導し、徹底させる。 道具の正しい使い方を繰り返し伝えていく。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方を繰り返し伝えるとともに、表現方法を動画や投影機で分かりやすく提示する。 自分や友達のよさを見付ける鑑賞活動を充実させていく。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 道具の正しい使い方を繰り返し伝えるとともに、表現方法を動画や投影機で分かりやすく提示する。 児童の多様な価値観を認め合う力を育み、対話による学びにつなげるために、鑑賞活動を充実させていく。 タブレット端末を活用し、調べ学習や鑑賞の学習を充実させる。 	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 話の聞き方の姿勢、時間を意識した準備や片付けの仕方を繰り返し指導することで、学習規律が少しずつ定着してきている。 安全に気を付けて道具を正しく使うことが、表現力の充実につながっている。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 左記のたてを導入し、「できる、わかる」授業を目指すことで、見通しのもてる学習につながっている。 鑑賞活動を充実させ、自分の思いや発想が広がるよう活動を工夫してきた。児童が主体的に作品のよさを見付けるようになってきた。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 左記のたてを導入し、「できる、わかる」授業を目指すことで、見通しのもてる学習につながっている。 鑑賞活動による言語活動を充実させることで、お互いの思いや表現の仕方の良さを認める場面が増えた。 タブレット端末をアイディアスケッチや振り返りで活用することで、深い学びにつなげることができている。 	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の話に活動を止めて聞くことは概ねできているが、繰り返しの指導が必要である。時間を意識した準備や片付けは、繰り返しの指導で定着してきている。 安全に気を付けて使える道具が増え、様々な表現方法の手助けとなっている。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> めあてに沿った授業や、分かりやすい指示の工夫を教師が続けることで、ほとんどの児童が学習の振り返りで自信をもてた。 アートカードを積極的に取り入れることで、作品のよさを進んで見付け、伝え合う場面が増えた。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> めあてに沿った授業や、分かりやすい指示の工夫を教師が続けることで、ほとんどの児童が学習の振り返りで自信をもてた。 アートカードを積極的に取り入れることで、作品のよさを進んで見付け、伝え合う場面が増えた。 タブレット端末を使ったアイディアスケッチは、何度でも試すことができるので、豊かな発想、構想を深める手立てとなった。
<p style="text-align: center;">特支</p>	<p>学</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感が低く、自信がもてない児童が多い。 読むことがたどたどしく、スムーズに音読できなかったり、字形を整えたり、マス目の大きさに合わせて字を書いたりすることが苦手な児童がいる。 人とのコミュニケーションを取ることが苦手で、自分の気持ちを相手に伝えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感の低さから、いろいろな活動に意欲的に取り組めないことについて指導する必要がある。 読み書きの苦しさから、様々な教科で板書したり、文を書いたりすることに抵抗感が強いところを指導する必要がある。 相手の気持ちを想像したり、自分の思いを適切に表現したりすることができ、友達とうまくかわれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップでの学習を通して、できた経験や褒められる経験を増やし、自信や達成感をもたせる。 児童一人一人の実態や特性に応じた課題を提示したり、読み書きプログラムを活用したりして、苦手意識を減らし、意欲的に課題に取り組めるようにする。 学習のめあてを立てて振り返ったり、気持ちの度合いを可視化する教材を使用したりして、達成感をもたせたり、自分の気持ちに気付かせたりする。小集団指導においては、友達と協力したり、相手の気持ちに気付かせたり、自分の考えを話したりする活動を意図的に計画し、友達とうまくかわる力を身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップでの学習を通して、できた経験や褒められる経験が増え、自信や達成感をもたせることにつながっている。 児童の実態や特性に合わせ、意欲的に取り組むことができる課題を用意して提示することで、苦手意識の軽減につながった。 小集団指導においては、友達と協力したり、自分の考えを話したりする活動を多く計画し、同じ小集団で学習する友達と上手に関わる力を身に付けられるようにした。 個別指導、小集団指導の中で ICT 機器を積極的に取り入れて、児童一人一人の特性に合った指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の実態に応じた課題を設定したことで、できることが増え、自信や達成感をもって活動に取り組める児童が増えた。 読み書きプログラム教材やタブレット端末の活用を通して、意欲的に学習に取り組むことができた。書字への苦手感のある児童がタイピング入力を習得することで書くことへの負担の軽減につながった。 小集団の活動では、ICT 機器を活用し、視覚優位の児童にとって分かりやすい教材提示をすることで、ルールの理解向上につながった。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。